

2019 年度 研修開催報告

教育の質保証を実現するために、大学教員の職能開発（FD）の更なる実質化・高度化が求められている。ここでは、首都大学東京 FD 委員会の主催による、本学の教育理念の共有と着任後の円滑なコミュニケーションを図るために実施した新任教員 FD 研修、TA の役割に関する理解や教育補助者としてのスキルアップ、情報収集を目的とした TA 研修・情報交換会、アクティブ・ラーニングの具体的な手法や実践例等を共有するためのアクティブ・ラーニング手法紹介セミナーの開催結果について報告する。

<新任教員 FD 研修・教育力向上 FD セミナー>

2019 年 4 月 3 日 14:00 ~ 17:35

1. 趣旨

この研修は、新任教員を対象に着任後の円滑な教育・研究活動へと導くために、毎年、授業開始前の 4 月初旬に開催している。研修の目的は以下のとおりである。

- 首都大学東京のカリキュラムの特色や教育方針等を理解する。
- 授業デザイン・実践のための基礎知識・スキルを習得する。
- 同僚とのコミュニケーションを図り、着任後の円滑な教育・研究活動に繋げる。

また、研修は一部・二部形式で実施し、二部の授業設計に関するワークショップについては、新任教員だけではなく、教育力向上 FD セミナーとして同時開催し、一般の教員も参加した。

2. 概要

[開催日時・場所・参加人数]

2019 年 4 月 3 日 南大沢キャンパス

新任教員 FD 研修 19 名、教育力向上 FD セミナー 5 名

[主なプログラム]

(第一部)

- 首都大学東京の概要と本学の教育が目指す方向性
(教育担当副学長 山下 英明)
- eラーニングシステム kibaco の紹介について
(学術情報基盤センター 藤吉 正明 准教授)
- 首都大学東京の FD・教学 IR 活動の紹介について
(大学教育センター 近藤 伸彦 准教授)

(第二部)

- 効果的な授業設計を学ぼう！ーシラバスの書き方から評価までー
(大学教育センター 松田 岳士 教授)

主なプログラムのうち、eラーニングシステム kibaco の紹介については、本学の eラーニングシステムである kibaco の概要や基本的な機能（資料・お知らせ・テスト/アンケート・課題・映像配信）の活用方法について説明を行った。

首都大学東京の FD・教学 IR 活動の紹介については、本学の主な FD 活動やアクティブ・ラーニングの現状、教学 IR の仕組み、分析事例等の紹介を行った。

本学の主なFD活動

- ◆ FDセミナー
 - 4月：新任教員研修
 - 6～7月頃：FD・SDセミナー **年間報告書「クロスロード」にこれまでの記録あり**
 - 11月：FDセミナー
 - 年4～5回開催：「実際に活用できるアクティブ・ラーニング手法紹介セミナー」
 - その他、適宜教育力向上FDセミナー開催
- ◆ 学部ごとの企画によるFD
- ◆ 学生相談室、ダイバーシティ推進室主催セミナー
- ◆ eラーニングによるFD教材配信 **ALセミナー動画も。詳しくは第2部に！**
- ◆ TA・STA研修
- ◆ 授業改善アンケート
- ◆ 年間報告書、学生向けリーフレット発行 など

03 Apr 2019 2019年度 新任教員研修 5

本学のアクティブ・ラーニングの現状

アクティブ・ラーニングの実施内容（複数回答可）

従来から用いられてきた手法は多め

いわゆる「アクティブ・ラーニングっぽい」が比較的新しめの手法はやはり少なめ

回答された割合 (N=1,378)

03 Apr 2019 2019年度 新任教員研修 12

首都大の教学IRのしくみ

03 Apr 2019 2019年度 新任教員研修 20

教育力向上FDセミナーとして同時開催したワークショップ「効果的な授業設計を学ぼう！ーシラバスの書き方から評価までー」では、①配付資料を参照しながら、担当する授業の学習目標を明瞭にして、それに応じた評価方法を設定できるようになる。②研修内で説明する基本ポイントを反映したシラバスを記述できるようになる。の2つの目標を掲げ、講義・個人ワーク・ペアワークを織り交ぜながら、インストラクショナルデザインに基づく授業設計のあり方を学んだ。

補足ワークシート

学部・学科・研究科 _____、氏名 _____

■ シラバスの修正・作成
ワークシート1、2で行った作業に加えて、下記チェックリストを使ってご自身のシラバスを見直してみましょう。

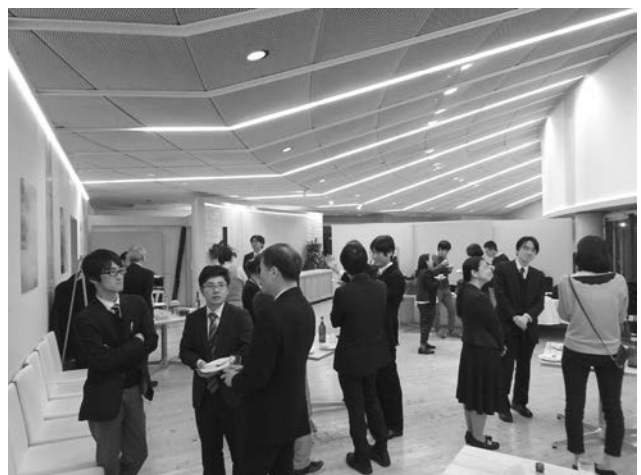
✓ チェックリスト

シラバス項目	チェックポイント	確認	修正すべき内容
① 授業計画・内容・ 授業方法・授業 外学習	学習目標との対応が分かるか	<input type="checkbox"/>	
	毎回の授業内容が予測できるか	<input type="checkbox"/>	
	学習活動が推測できるか	<input type="checkbox"/>	
	アクティブラーニングが効果的に配置されているか	<input type="checkbox"/>	
	授業外学習のイメージや分量が明瞭か	<input type="checkbox"/>	
② テキスト・ 参考文献等	学生が入手できる文献か	<input type="checkbox"/>	
	テキストなのか参考書なのか	<input type="checkbox"/>	
	誤った版を入手する恐れはないか	<input type="checkbox"/>	
③ 成績評価方法	どうすれば単位が取れるか予測できるか	<input type="checkbox"/>	
	どこまで到達できれば満点になるか予測できるか	<input type="checkbox"/>	
④ 特記事項	前提知識が具体的に書かれているか	<input type="checkbox"/>	
	教員に相談したい場合、どうすればよいか分かるか	<input type="checkbox"/>	

3. 参加者の主な感想

- 本学の理念、将来のビジョンから授業設計まで内容が濃く、大変有意義な研修会だった。
- 講義が大変興味深かった。こういった話を聞くのは初めてで勉強になった。
- 着任初年度だが、1年目、2年目…と初級・中級と段階の異なるFD研修をして欲しいと思った。
- シラバスを書く時はいつも前例を参考にしていたので、どうやってオリジナリティを持ってシラバスを作成すればよいか分かり、とても参考になった。

〔研修終了後の懇親会の様子〕



<TA 初任者研修>

2019年4月18日、19日、23日 16:20～17:20

1. 趣旨

首都大学東京では、2015年度にTA（ティーチング・アシスタント）制度の改正及び拡充を図ったことから、TAとして教育に携わる大学院生の増加を目指している。毎年4月には、初めてTAとなる院生に向けて、TAの役割や心得について研修を行い、その効果的な活用を図っている。

2. 概要

[開催日時・場所・参加人数] 計77名

2019年4月18日

南大沢キャンパス（理系エリア）42名

2019年4月19日

南大沢キャンパス（文系エリア）8名

荒川キャンパス（テレビ中継）3名

2019年4月23日 日野キャンパス 24名

[プログラム]

- TAの役割と心得
- TA体験談
- 事務手続について

3. 参加者の感想

参加者77名のうち73名からアンケートの回答を得た。研修を通じてTAの心得や役割について理解を深めることができたと感じている院生が87%を占めた。

4. TA体験談の発表

TA初任者研修では先輩TAが実際にどのようにTAを実践したか、TA体験談を聞く機会を設けている。

自身が担当していた業務内容から、実際に業務に従事するにあたって心がけていたこと、教員との連携の仕方、トラブルに直面した時の対応方法、TA業務を通じて身についた能力等の話があり、参加学生は、真剣な眼差しで話を聞いていた。

業務に従事する際の留意点や、TAとしての心構えを確立するための良い機会となった。



2019年度
TA 初任者研修

先生！
TAの役割・心得とは？

先輩TA！
どんな工夫しました？

報告書の書き方も紹介！

TAになりたい、基礎知識をおさりたい院生・学部生、教員の参加も大歓迎！

対象者 ・2019年度に初めてTAやSTA業務に従事する大学院生
・これまでにTA初任者研修に参加したことのないTAやSTA

目的 TAは教員とともによい授業をつくる「教育補助者」です。この研修では、初めてTAとなった皆さんが教育補助者を目指す第一歩として、スムーズにTA業務に取り組めるよう、①TAの役割と心得を学ぶとともに、②TA体験談が語る「業務で心付いたこと・トラブル対応方法-身に付いたこと」等を聞いて、TA業務のイメージを掴んでいただきます。更に、③報告書の書き方も紹介いたします。

日時・会場 どの回に参加しても構いません。（内容は3回とも同じです。）
3回とも 16:00開場、16:20開始、17:20終了です。

第1回 : 4/18(木) 南大沢キャンパス（理系エリア）12号館101教室
第2回 : 4/19(金) 南大沢キャンパス（文系エリア）本部棟1階大会議室
荒川キャンパス（TV同時中継）管理棟2階大会議室
第3回 : 4/23(火) 日野キャンパス 1号館1階セミナー室1

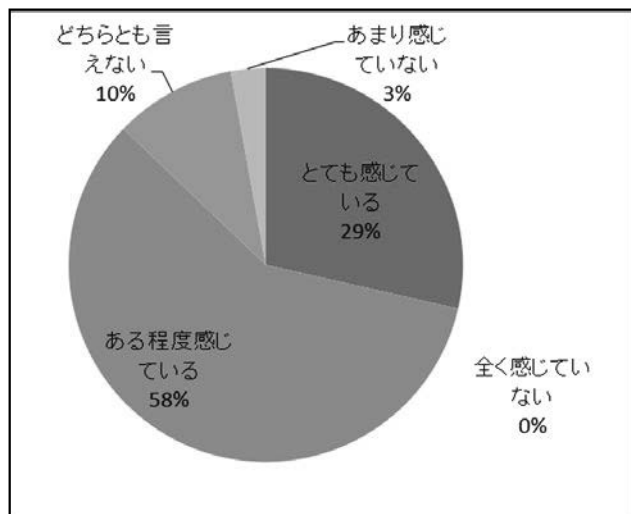
申込方法 開催日前日までに、以下のいずれかの方法でお申込みください。（当日参加も可能ですが、資料準備の関係上、事前申込をお断りしています。）
・Kibaco : 「TA連絡コース」の「テスト/アンケート」ページで必要事項を入力
・メール : 本文に「学修番号・氏名・所属・年次・参加会場」を記入の上、「主催・問合せ先」に記載のメールアドレス宛てに送信
※ログイン時のID/パスワードは、大学メール等と同様です。「TA連絡コース」を利用するには、コースの自己登録を行ってください。自己登録方法は、Kibacoの「ページ」にある「学修生用自己登録の方法(QuickGuide)」にてご確認ください。
※コースの授業コードは「aptarenaku」(すべて半角)です。

主催 首都大学東京FD委員会 <事務局> 首都大学東京管理部教授課教務企画係
問合せ先 TEL : 042-677-2937, メールアドレス : kyomu-kikaku@jnj.tmu.ac.jp



5. 参加者へのアンケート結果抜粋

○心得や役割について理解を深めることができたと感じているか



○感想（一部抜粋・要約）

- ・TAが考えるべきことやTAの役割を理解できた。
- ・実際の現場でのノウハウを知ることができた。
- ・事務手続きを分かりやすく説明してくれた
- ・現TAの話が大変参考になった
- ・具体的なイメージができた

6. 当日の様子・資料



1. TAとは

本学におけるTA制度の目的

◆大学院生への支援

学部学生等の教育に係る補助業務を通じて、教育訓練の機会を提供するとともに、手当支給により経済的支援を行う。

◆大学教育の充実

授業補助体制を強化し、学部学生等に、より考えさせる授業を実施する。

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

5

2. TAの役割

TAの4つの存在理由

1. 授業をスムーズに進行させる
2. 教員とは異なる教育効果
3. 授業改善に役立つ
4. 自分自身も学び、成長する

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

7



<TA 情報交換会>

2019年11月13日 17:00～19:00

1. 趣旨

首都大学東京のTAには「STA（シニア・ティーチング・アシスタント）」という区分があり、博士後期課程の大学院生に教育訓練の機会を提供している。

本情報交換会は、STA 及び TA がこれまでに携わった業務を通じて得た経験、知見等を把握し、今後のTA制度の改善に繋げることを目的とするとともに、課題に対する解決法を考え、TA自身の教育指導力の向上とモチベーションを高め、STA 及び TA 同士が情報共有をする機会とする。

2. 概要

〔開催日時・場所・参加人数〕

2019年11月13日

南大沢キャンパス 4名

〔プログラム〕

- TA アンケートを基にした情報交換及び課題抽出
- グループワーク「課題設定」「その問題を解決するためにはどのような取組が必要か」
- グループワークの発表
- 解説、まとめ

3. 参加者の感想（一部抜粋・要約）

- グループワークで自身が想定していなかったアイデアが出て来た。
- グループディスカッションと、直接他のTAとコミュニケーションができたことがとても良かった。
- 参加者が皆、意欲的で自身もやる気が出てきた。
- 担当科目が異なるので、もっと交流時間が欲しい。



達成目標

- ▶ 知識：TAの必要性と役割を、教員の役割と比べながら説明できるようになる
- ▶ スキル：実際に発生する可能性のあるトラブルに対応するための基本スキルを実践できるようになる
- ▶ ネットワーキング：TAの間で相談できる関係を築く

<実際に活用できるアクティブ・ラーニング手法紹介セミナー>

2019年5月23日、10月3日、12月20日、(全3回)

1. 趣旨

教育改革推進事業（学長指定課題）の取組みとして、大学教育センターとFD委員会の共催で、アクティブ・ラーニングの具体的な手法や授業設計、実践例等を共有するための少人数によるワークショップ形式でのセミナーを開催した。

2019年度は2017年度からの3か年事業の最終年度として、全3回のセミナーを開催した。セミナーの開催回数は3年間で計13回となり、アクティブ・ラーニングの様々な実践方法の紹介に加え、参加者同士の意見交換・ディスカッション等を取り入れることにより、参加者自身がアクティブ・ラーニングを体感する良い機会となっている。

2. 概要

〔第1回セミナー〕

2019年5月23日 南大沢キャンパス（参加者18名）
 テーマ：eラーニング教材作成・活用入門—配布資料・小テストからビデオまで—

（講師：大学教育センター 松田 岳士 教授）

eラーニングは、アクティブ・ラーニングを効果的にすすめるために便利な方法であるが、高品質な教材（コンテンツ）を作る必要があると考えてると敷居が高くなってしまいます。実際には、手間ひまをかけて凝った教材を作ることよりも、学生を学びに導く魅力的な教材を作ることのほうが授業の成功にとって重要である。今回は、様々なeラーニング教材の手軽な作り方と有効な活用方法について、実例を交えながら紹介を行った。



〔参加者へのアンケート結果抜粋/5段階評価〕

	選択肢	平均値
1	同僚にも受講をすすめたい	4.47
2	セミナー全体の時間の長さは適当であった	4.33
3	期待していたとおりの内容であった	4.07
4	担当講師の説明は分かりやすかった	4.67
5	セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	4.33
6	新たな手法を学ぶことができた	4.47
7	参加の目的を達成できた	4.33
8	eラーニングを実践する実践する自信がついた	3.67
9	自分が担当する授業の改善すべき点があった	3.87
10	今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	4.73



首都大学東京教育推進事業 学長指定課題
 主催：大学教育センター / 首都大学東京FD委員会

2019年度 第1回
アクティブ・ラーニングセミナー

eラーニング教材作成・活用入門
—配布資料・小テストからビデオまで—

魅力ある授業を設計するためのポイントをしっかりとレポート!

eラーニングは、アクティブ・ラーニングを効果的にすすめるために便利な方法ですが、高品質な教材（コンテンツ）を作る必要があると考えてしまうと敷居が高くなってしまいます。実際には、手間ひまをかけて凝った教材を作ることよりも、学生を学びに導く魅力的な教材を作ることのほうが授業の成功にとって重要です。今回は、様々なeラーニング教材の手軽な作り方と有効な活用方法について、実例を交えながら紹介していきます。

【講師：大学教育センター 松田 岳士 教授】

日時

5月23日（木）16:20~17:50

南大沢キャンパス 6号館402

- 参加対象者：首都大学東京の全教員（常勤・非常勤は問いません）
- 参加費：無料
- 申込方法：下記の担当宛に「第1回ALセミナー申込み」と明記し、5月22日（水）までに事前にメールでお申込みください。
- 申込先：南大沢キャンパス 教務課教務企画係 担当：宮本
- メール：kyomu-kikaku@jmj.tmu.ac.jp
- 電話：042-677-2937（直通） / 1035（南大沢内線）

〔第2回セミナー〕

2019年10月3日 荒川キャンパス（参加者16名）
 テーマ：ルーブリックの活用事例を学ぼう！

（発表者：健康福祉学部看護学科 島田 恵 准教授・岡本 有子 准教授、作業療法学科 小林 隆司 教授）

健康福祉学部でルーブリック評価を実践している2組の教員の事例発表を通じて、ルーブリックの効果や課題等について共有し、参加者同士で率直な意見交換を行った。

◆在宅看護学演習におけるルーブリック導入事例
(看護学科 島田 恵 准教授・岡本 有子 准教授)

用手的呼吸介助法ルーブリック 2019年度版				
演習の目的		評価方法		
1. 用手的呼吸介助法の目的、および業務がわかる		事前学習の実施状況		
2. 用手的呼吸介助法の手技を理解し、その手技を行うことができる		ルーブリック		
		チャック化の評価		自動化の評価
評価	レベル4 エキスパートを目指して	レベル3 今回の演習での到達目標	レベル2 もう一歩	レベル1 頑張ろう
用手的呼吸介助法	2人以上の人を対象に、手技を記憶して、自らの力で一連の手技が正確に実施できた	手技を記憶して、自らの力で一連の手技が正確に実施できた	手順書や口頭での説明を受けながら、一連の手技が正確に実施できた	一連の手技のなかでできない手技がある(できていないポイント)は表下の【用手的呼吸介助法の手技】に因る
演習方法の変更:1グループあたりの学生数の増加 学生2名/G⇒学生3名/G				

【ルーブリックを導入してみた効果と思われること】

1. 学生の評価状況は、今回の到達目標(手技を記憶して、自らの力で一連の手技が正確に実施できた)に達していた
2. エキスパートを目指して(2人以上の人を対象に、手技を記憶して、自らの力で一連の手技が正確に実施できた)学生も多かった
3. 教員から見た印象は、昨年度と比較して、1) 楽しそう、2) 学生同士の発言や教員への質問も多く、手技習得に熱心そうにみえた

【ルーブリック導入後に考えられた課題】

1. 事前学習課題の準備が間にあわなかった
 - ・もし準備できたとしても、演習時に知識確認のための時間は必要となる
2. 演習目標に達していなかった学生:8名
 - ・自己評価の適切さの課題
 - ・教員の評価も必要
3. ルーブリック評価をチェックしていなかった学生:若干名
 - ・5名程度は、後日チェックしてもらった
 - ・演習時の周知の徹底
4. 演習時間内で、教員のルーブリック評価ができなかった
 - ・非常勤講師3名の協力を得て、教員5名で分担して学生の演習をラウンドしたが、教員側の評価は全くチェックできなかった(学生数が多い・手技の指導等)
5. 本評価項目の適切性(初学者として、近い将来に看護師となる学生として)

◆レポート評価におけるルーブリック導入事例
(作業療法学科 小林 隆司 教授)

2020年度 身体作業療法学Ⅰ レポート採点基準			
[指示]			
*教科書の指定されたページや資料をよく読み、わからない内容や更に深く調べたいことをレポートのテーマとしてください。			
*テーマについて自己学習をおこない、ワープロソフト (MS Word) を用いて、レポートとしてまとめてください。			
*授業の前々日 (月曜日) の 13:00 までに kibacco に提出してください。			
*用紙は A4、余白は 20mm 程度として、一行の文字数 40 文字、1 ページの行数 40 行、フォントの大きさは基本 10.5 ポイントにて作成してください。			
採点基準 (8 点満点)			
	2 点	1 点	0 点
読みやすさ	誤字脱字がなく、段落等の文章表現が整えられていて、読みやすいレポートになっている。また、図表が効果的に用いられている。	誤字脱字や文章表現に問題のある部分があるが、図表と文章とのバランスが悪い	誤字脱字や文章表現に問題のある部分が多い
分量と体裁	A4 用紙 3 ~ 4 枚にまとめられている。体裁は指示どおりである。引用部分が表示され、レポートの最後に文献一覧が示されている	A4 用紙 5 枚以上である。A4 用紙 2 枚である。体裁は指示どおりである。引用部分不明瞭である。最後に文献一覧が示されている	A4 用紙 1 枚である。体裁が指示に従っていない。引用部分や引用文献 (ホームページを含む) がまったく示されていない
資料	複数の書籍に加えて、近年の論文から最新の知見を取り入れている	ホームページだけでなく、教科書以外の書籍もしくは論文を引用して、偏りのない内容になっている	ホームページや教科書のコピーが大部分である。論文が引用されているが、抄録をコピーしただけである
主張と根拠	取り上げたテーマに関して、根拠に基づき、論理的な説明ができていて、自らの考えを独自の思索に基づき明確に述べている	一部根拠を示しているが、論理的な説明が不十分である。自らの主張が十分述べられていない	論理的な説明ができていない。自分の意見が述べられていない

[参加者へのアンケート結果抜粋 /5 段階評価]

	選択肢	平均値
1	同僚にも受講をすすめたい	4.60
2	セミナー全体の時間の長さは適当であった	4.30
3	期待していたとおりの内容であった	4.60
4	担当講師の説明は分かりやすかった	4.60
5	セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	4.50
6	新たな手法を学ぶことができた	4.50
7	参加の目的を達成できた	4.50
8	ルーブリック評価を実践する自信がついた	4.10
9	自分が担当する授業の改善すべき点があった	4.30
10	今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	4.60

首都大学東京

首都大学東京教育改革推進事業 学長指定課題
主催：大学教育センター / 首都大学東京 F D 委員会

2019年度 第2回
アクティブ・ラーニングセミナー

ルーブリックの活用事例を学ぼう!

日時 10月3日 (木) 16:15~17:30
場所 荒川キャンパス 校舎棟4F 470教室

荒川キャンパスで開催する今回のALセミナーは、ぜひルーブリック評価実践事例の発表会です!学生のパフォーマンスを評価する上で、ルーブリックを授業に取り入れてみたいと思っているけど、なかなか導入に踏み切れない、本当に効果があるのか疑問、といったお悩みを抱えている先生方も多いのではないのでしょうか?
今回は健康福祉学部でルーブリック評価を実践している2組の先生方の事例発表を通じて、ルーブリックの効果や課題等について共有し、参加者同士で率直な意見交換を行う機会を提供します。皆さん奮ってご参加ください!

プログラム	発表者等
事例発表① (30分) 演習授業におけるルーブリック導入事例	健康福祉学部 看護学科 島田 恵 准教授・岡本 有子 准教授
事例発表② (20分) レポート提出にルーブリックを活用してみた結果	健康福祉学部 作業療法学科 小林 隆司 教授
総合ディスカッション	(進行) 大学教育センター 松田 岳士 教授・近藤 伸彦 准教授

● 参加対象者：首都大学東京の全教員 (常勤・非常勤は問いません)
● 参加費：無料
● 申込方法：下記の担当宛に「第2回ALセミナー申込み」と明記し、10月2日(水)までに事前にメールでお申込みください。
● 申込先：南大沢キャンパス 教務課教務企画係 担当：宮本
● メール：kyomu-kikaku@jmj.tmu.ac.jp
● 電話：042-677-2937 (直通) / 1035 (南大沢内線)

[第3回セミナー]

2019年12月20日 南大沢キャンパス (参加者6名)
テーマ：汎用的能力をどのように育成・評価するか
ーアクティブ・ラーニングの役割再考ー
(講師：大学教育センター 松田 岳士 教授)

アクティブ・ラーニングが持つ汎用的能力の育成機能に注目し、本来教育すべき専門や教養に加えて、汎用的能力の育成まで考慮した授業・評価をどのように開発していくのかを参加者とともに考える機会を設けた。

首都大学東京

汎用的能力に関する課題

▶就業力
 ▶学士力
 ▶社会人基礎力
 ▶21世紀型スキル

汎用的能力(中心)が

課題

1. どのように育成するか
2. どのように()するか(評価の粒度)
 - 1) 全科目通して修得:市販のテストセット
 - 2) 特定科目群~1科目:ルーブリック(w.ポートフォリオ)
 - 3) 1科目~1単元:パフォーマンス課題
3. どのように就職等に結びつけるか

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

首都大学東京

首都大が求める汎用的能力

汎用的能力	解説
コミュニケーション能力	自らの考えや疑問を相手に分かり易く伝えるとともに、相手の意見や疑問を的確に理解し、協調して行動することができる
情報活用能力	情報通信技術等を用いて、多様な情報を収集・分析し、効果的かつ正しく活用することができる
総合的問題思考力	持っている知識、能力等を総合的に活用しながら、多角的な視点から物事を思考し、解決すべき問題の本質を見極め、それに取り組むことができる
論理的思考力	論理的展開を的確に理解したり、自らの考えを論理的に組み立てたりすることができる
能動的学修姿勢	自ら解決すべき問題・課題を見つけ、それに取り組む姿勢を備えている
倫理観、社会的責任の自覚	高い倫理観を持って、社会に対し主体的に関与する責任を自覚している
異なる文化・社会への理解	異なる文化的背景を持つ人・国・地域・社会等への理解を深める

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

首都大学東京

3.1. 目標に向けた育成法

■ 授業の設計(インストラクショナルデザイン)

✓ 目標→評価対象→評価方法・配点→学習活動の順に設計

✓ 汎用的能力を育成する学習活動
講義や自習による知識習得ではない

→ 学習者自身の知識やスキルの外化を伴う活動(アクティブ・ラーニング)が必要

いくつかの手法のうち、個々の学習者を対象とした認知的徒弟制と学習方略の習得を紹介

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

[参加者へのアンケート結果抜粋/5段階評価]

	選択肢	平均値
1	同僚にも受講をすすめたい	4.33
2	セミナー全体の時間の長さは適当であった	4.50
3	期待していたとおりの内容であった	4.33
4	担当講師の説明は分かりやすかった	4.83
5	セミナーで紹介された手法を取り入れようと思う	4.67
6	新たな手法を学ぶことができた	4.67
7	参加の目的を達成できた	4.17
8	汎用的能力を育成・評価する自信がついた	3.50
9	自分が担当する授業の改善すべき点があった	4.17
10	今後別のテーマのセミナーにも参加してみたい	4.33

首都大学東京

2019年度 第3回
アクティブ・ラーニングセミナー

勉力ある授業を設計するためのポイントをしっかりとサポート!

汎用的能力をどのように育成・評価するか

ーアクティブ・ラーニングの役割再考ー

専門知識や専門技能を実社会で活かすためのキーとして汎用的能力(ジェネリックスキル)の育成が求められるようになっていきます。一方で、従来の大学教育では、学生の汎用的能力が授業自体の達成目標や可視化の対象になることは、あまりありませんでした。

本セミナーでは、アクティブラーニングが持つ汎用的能力育成機能に注目し、本来教育すべき専門や教養に加えて、汎用的能力の育成まで考慮した授業・評価をどのように開発していくのかを参加者とともに考えます。

講師: 大学教育センター 松田 岳士 教授

日時: 2019年12月20日(金) 16:20~17:50
場所: 南大沢キャンパス 1号館105

- 参加対象者: 首都大学東京の全教員(常勤・非常勤は問いません)
- 参加費: 無料
- 申込方法: 下記の担当宛に「第3回ALセミナー申込み」と明記し、12月19日(木)までに事前にメールでお申込みください。
- 申込先: 南大沢キャンパス 教務課教務企画係 担当: 宮本
- メール: kyomu-kikaku@jmi.tmu.ac.jp
- 電話: 042-677-2937(直通) / 1035(南大沢内線)

首都大学東京教育改革推進事業 学長指定課題
主催: 大学教育センター / 首都大学東京FD委員会

3. kibaco による動画配信の開始

2019年度からeラーニングシステム kibaco を利用して、アクティブ・ラーニングセミナーの様子を撮影した動画の配信を開始した。

全13回のアクティブ・ラーニングセミナーの他、ティーチング・アシスタント(TA)制度をよりよく授業で活用していただくための教材や、反転授業等で活用するためのビデオ教材を作成するためのポイントを解説した教材等も視聴でき、セミナーに参加できない教員や復習等に活用したい教員をフォローする取組を行っている。

視聴方法

- ① kibacoに上記3つのコースがあります。(表示されない場合、右側のタブを選択し、表示してください。)
- ② 表示後、画面左側の各コースの「動画」をクリックしてください。
- ③ ポップアップウィンドウが開きeラーニングFD教材を視聴できます

※ 視聴情報(ユーザ名、視聴回数等)を、視聴者個人が指定されない形で集計・分析し、学内外に分析結果として報告させていただきます。報告がめましますので、ご了承ください。視聴情報は、個人情報保護に十分配慮した上で適正に管理いたします。